

老人は大言壮語すべし夏

藤田湘子

湘子は有言実行の人である。いつも十年先を見据えて、その先五十年後にも思いを馳せていたように思う。

掲句は平成九年作。第二次鷹発足当時である。同人会長だった小倉大さんは、クロネコヤマト宅急便の生みの親で、その小倉さんをして、経営者にしたいと言わしめた湘子である。大言壮語とは程遠い行動の人であった。

この年、湘子は七十一歳。

「引き続き有言実行で鷹のゆるぎない未来へ邁進しよう。よもや実行できなくてもいいではないか。真正正銘大台の老人になったのだから、よしとしようではないか。老人こそ大言壮語すべしなのだ。」と思つたのではないか、と私は思う。自己肯定と励ましの夏である。

1997年 (H9作) 第十句集『神楽』 鑑賞・野本京